

2025 年度決算等に関するプレス資料

I. 2025 年度（2026 年 3 月期）決算概要

1. 損益の状況
2. 営業活動の状況
3. 健全性指標

II. 2026 年度の計数計画

I. 2025 年度(2026 年 3 月期)決算概要

1. 損益の状況

○経常収益

売上高にあたる経常収益は前期比 23.5%増加の 147 億 78 百万円となりました。政策金利の引き上げによる貸出金利回りの上昇と貸出金残高の増加により、3 期連続で貸出金利息収入が増加したことに加えて、有価証券利息配当金、役務取引等収益も増加した結果、経常収益は増加いたしました。

○経常費用

経常費用は、前期比 28.0%増加の 128 億 31 百万円となりました。

預金利息が大きく増加したことに加えて、貸出金不良債権処理額や経費も増加したことにより、経常費用は増加いたしました。

○経常利益、当期純利益

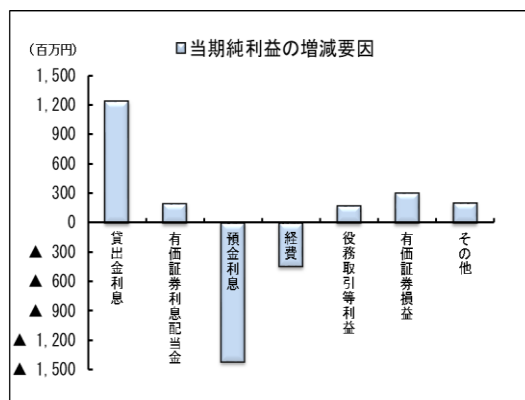
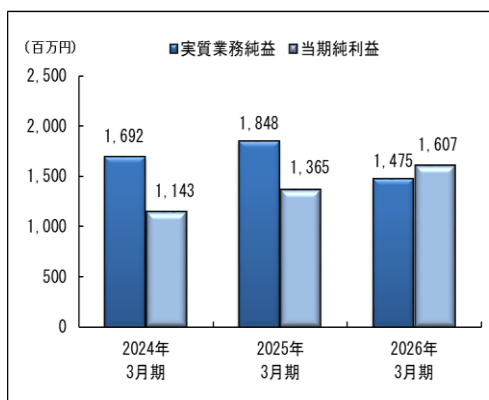
その結果、経常利益は前期比 0.5%増加の 19 億 47 百万円、当期純利益は 17.7%増加の 16 億 7 百万円となりました。

○実質業務純益

本業の収益を示す実質業務純益は預金利息費用の増加が貸出金利息収入の増加を上回ったことなどから 20.1%減少の 14 億 75 百万円となりました。

(単位:百万円、%)

	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	前期比	増減率
実質業務純益	1,692	1,848	1,475	▲ 373	▲ 20.1
資金利益	8,748	9,083	9,181	98	1.0
貸出金利息	6,610	6,970	8,209	1,238	17.7
有価証券利息配当金	2,021	2,364	2,556	191	8.1
預金利息	151	598	2,017	1,419	237.0
役務取引等利益	89	335	506	171	51.0
その他業務利益	▲ 181	▲ 307	▲ 504	▲ 196	▲ 63.9
経費	6,963	7,262	7,708	445	6.1
貸倒引当金繰入額	41	16	0	▲ 16	▲ 100.0
経常収益	10,846	11,958	14,778	2,820	23.5
経常費用	9,120	10,022	12,831	2,808	28.0
経常利益	1,725	1,935	1,947	11	0.5
当期純利益	1,143	1,365	1,607	242	17.7

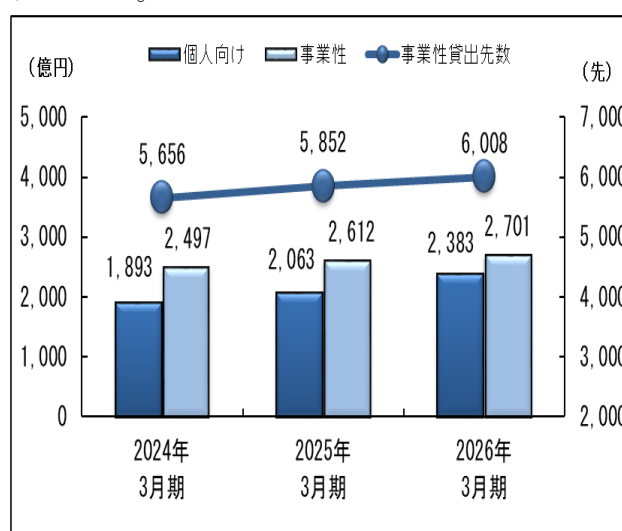
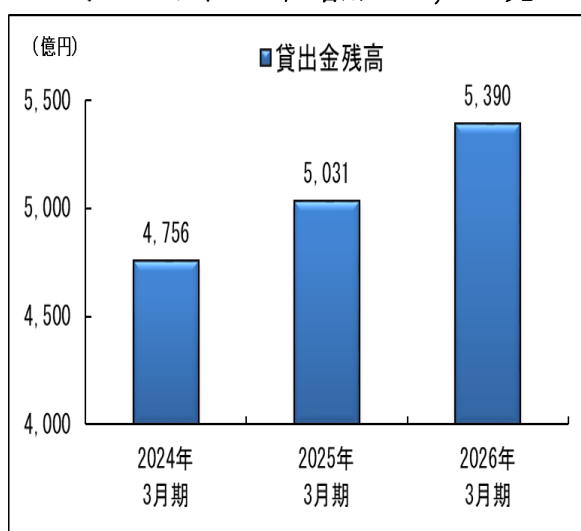


2. 営業活動の状況

○貸出金

貸出金の期末残高は、伴走型営業を通じた金融支援やローンセンターによる住宅ローンの推進等により、**前期比 7.1%増加の 5,390 億円**となり、**13 期連続で増加**しました。

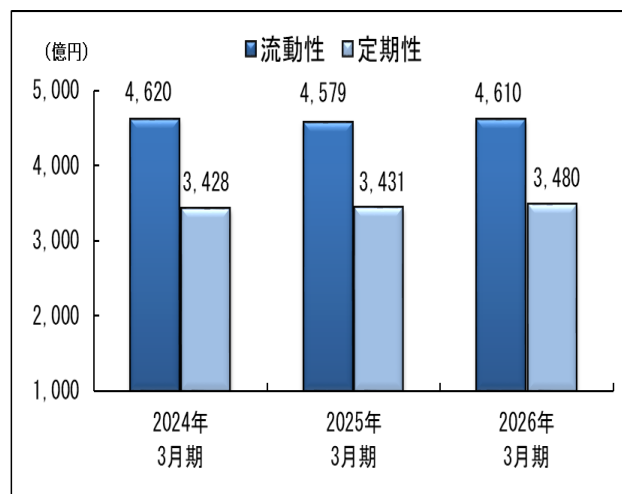
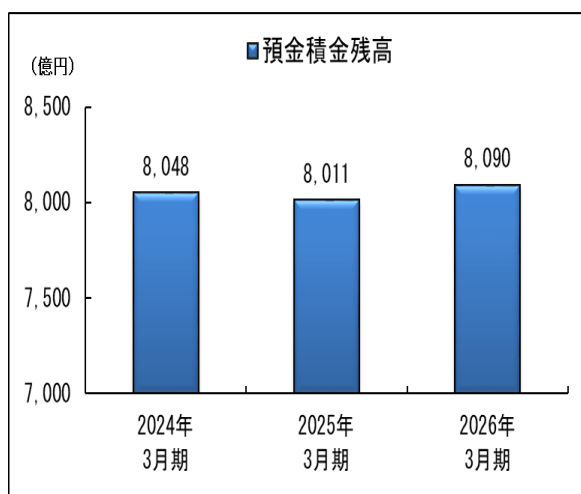
事業性の貸出先数は、本業支援を軸とした営業活動や継続的な新規開拓活動等により、**2.6%増加の 6,008 先**となりました。



※ 事業性貸出先には、地公体、金融機関向け貸出を含んでいません。

○預金積金

預金積金の期末残高は、給与・年金振込や口座振替、インターネットバンキング契約の推進に加え、金庫創立 100 周年を記念した「創立 100 周年記念定期預金」に多くのお客さまがお預入れいただいたこと等により、**前期比 0.9%増加の 8,090 億円**となり **3 期ぶりに増加**しました。

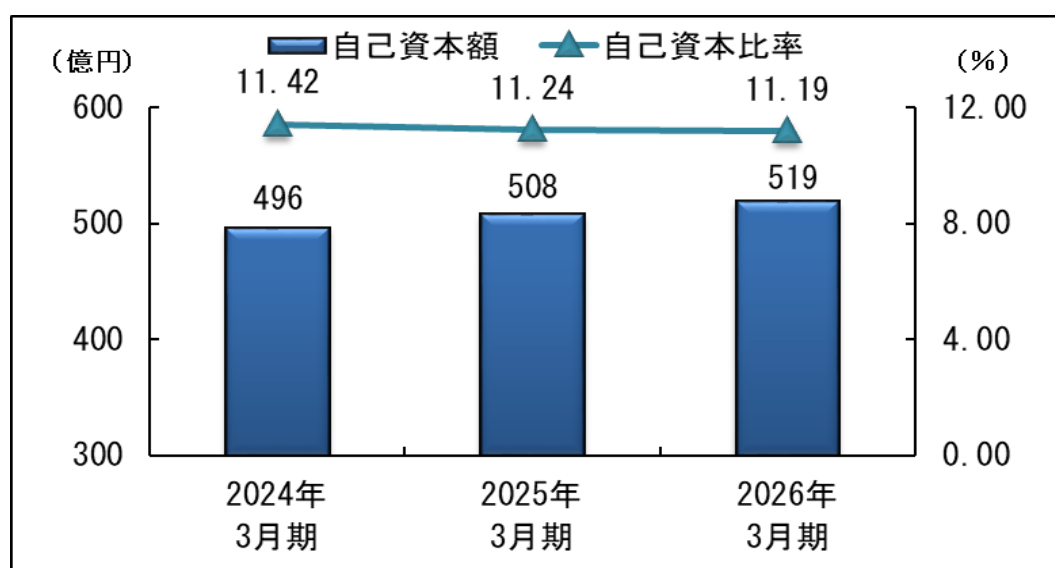


3. 健全性指標

○自己資本比率

自己資本額が前期比 2.1%増加した一方、リスク・アセット等も 2.5%増加したことにより、自己資本比率は 0.05 ポイント低下し 11.19%となりました。

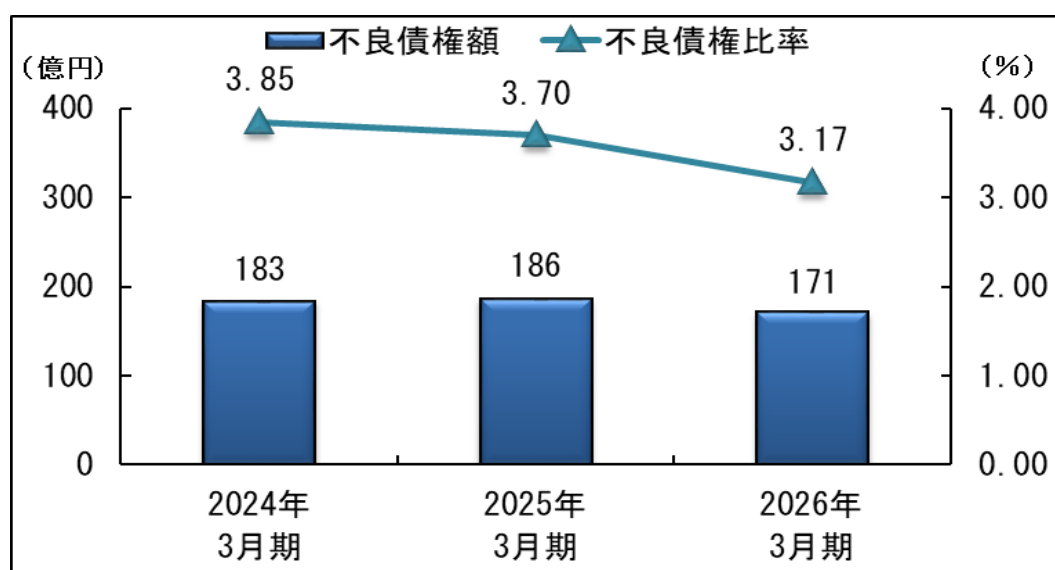
これは、国内業務のみを行う金融機関に必要とされる基準（4%）を大幅に上回っており、健全性に問題はありません。



○不良債権比率

貸出金が増加したことに加えて、業況が低調な先への支援に取り組んだ結果、不良債権額は前期比 8.1%減少の 171 億円、不良債権比率は前期比 0.52 ポイント低下の 3.17%となりました。

なお、これらの不良債権は、担保や貸倒引当金等で適切に保全を図っており、備えは万全です。



Ⅱ. 2026 年度の計数計画

○経常収益

貸出金利息収入等の業務収益の増加により、経常収益は前期比 3.3%増加の 152 億 80 百万円を見込んでいます。

○経常費用

預金利息および経費の増加を見込んでおり、経常費用は前期比 2.0%増加の 130 億 99 百万円を見込んでいます。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は前期比 12.0%増加の 21 億 80 百万円、当期純利益は前期比 20.2%減少の 12 億 82 百万円を見込んでおります。

○実質業務純益

なお、本業の収益を示す実質業務純益は、前期比 37.9%増加の 20 億 34 百万円を見込んでいます。

○2026 年度経営計画

2026 年度においても、以下の施策を実行し、お客さまや地域の課題解決に向けた伴走型の支援を実践することにより、地域金融機関としての役割を果たしていきたいと考えており、預金積金残高は 8,200 億円（2 期連続の増加）、貸出金残高は 5,590 億円（14 期連続の増加）を計画しています。

項目	施策概要
営業態勢の強化	・DX 支援体制の強化および重点的に取組む分野における DX 展開の強化 ・若年層取引の拡大
経営管理態勢の強化	・内部 API 活用による業務効率化・省力化 ・相続本部集中化の定着と受入業務の拡大に向けた取組み
人材育成・人材活用の充実化	・IT デジタル人材の育成 ・「健康経営優良法人」認定による組織への定着

（単位：百万円、%）

	2026年 3月期	2027年 3月期	前期比	増減率
経常収益	14,778	15,280	502	3.3
当期純利益	1,607	1,282	▲ 324	▲ 20.2

以 上